

あまのり



青森の四季を イメージした 津軽びいどろ

昭和24年に青森市で創業した北洋硝子は、漁業用の浮玉製造で国内トップシェアを誇る一大メーカーでした。その後、浮玉の製造がガラスからプラスチックに移行したことから、長年の浮玉製造で培った「宙吹き」の技法を活用して昭和52年に誕生したのが「津軽びいどろ」です。待ちわびた桜、夏祭り、燃えるような色鮮やかな紅葉、雪景色。青森の四季の移ろいや、自然が織りなす情景からインスピレーションを得たハンドメイドガラスは、国内外から高く評価され、青森県の伝統工芸品に指定されています。

1500度の炉でガラスを溶融し、棒に巻き付け反対側から息を吹き込んで形を整えていく「宙吹き」。このほかにも、現在では、職人たちの修練の蓄積による9種類の製法・技法によってさまざまなテーブルウェアが生まれています。

「津軽びいどろ」の大きな特徴は、豊かな色彩を自在に表現できること。ガラス溶融のスペシャリストで、「あおもりマイスター」である中川洋之工場長がテーマに合わせて一つひとつ調合しており、その色数は100種類に及ぶと言います。

写真の「NEBUTA」シリーズは、ねぶた祭をイメージしたもので、国内外からの注文が追いつかないほどの大人気商品。キラキラとはじけるようなカラフルな色ガラス。そっと手に取ると、夜空に映えるねぶたの情景が浮かび、お囃子の音色まで聞こえてくるようです。

▼関連記事はP6で

CONTENTS | 目次

- 特集 ▶ P2-5
人財きらめく、住んでよしの青森県
旬を食べよう。あおもり食材で簡単ヘルシークッキング/
青森さらりっぴん 私が出会った青森のIPPIN ▶ P6
青森の未来に全力! 県職員最前線レポート「建設業って面白いぞ!」/
衆議院議員小選挙区の区割りが改定されました/
PCB廃棄物の処分期限が迫っています! ▶ P7
申吾のほっとコラム/あおもりインフォメーション ▶ P8